

★★★★★ カンボジア・ニュースレター 第12号 ★★★★★

2019年3月27日～4月13日 献堂式の旅

★★KCC本部・教育館、IGM宣教師館の献堂式★★

「これはあなたがたの戦いではなく、神の戦いである。」(歴代20：15)

背後の御祈りによる宣教の働き手、協力宣教師であられる皆様方に感謝と御報告のレターをお届けできます事を嬉しく思いつつ、主の御名を崇めます。



2019年4月11日 献堂式出席者一同、心からの感謝を申し上げます。



♪《本部と青年教育館の正面入り口・右隣りが未完成の宣教師館》 ♪《延々と続く建物の連結》

3月27日、カンボジアに戻りました。30日に喜寿の誕生日を迎え、ここまで生かされ、而も尊い宣教の畑にてこの記念すべき時を迎えさせて下さいました主イエス様に心からの感謝と、細やかながらお祝いの時をもって献身の道を新たに出発させて頂きました。

この度の滞在の目的は与えられたKCC本部・IGM宣教師館の建物の献堂、献別の時を持つ事にありました。神様の祝福が与えられようとする処にサタンの妨げが付きもの！という事は充分知りながらも、さながらヨブの人生を再現するが如き試練が次々と押し迫ってくる日々でした。特にショックでしたのは4月4日に建設工事がどこまで完成しているかを視に行きましたら、ナント宣教師館の2階が大洪水、労働者が水道栓を閉め忘れて帰った為、二階から階段を伝って一階にも水が流れ降り、水浸しの宣教師館でした。事務所に報告し結論は全部、床を取り外し、全てを新しく張り直すという事で結局、いつ完成か？という事は分かりません。多分、契約では6月に完成する事で契約していますので、その時まで待たなければならない事でしょう。然し、感謝する事は最終的には献堂式が本部のホールにて挙行できた事です。

リボンカット、Greg師によるキーボード演奏の内に入場、嬉々として、粛々と着席、式が始まりました。



↓献堂式後の感謝の宴は思いがけずも突然届けられたHKJCFからの御祝儀で全部満たされ、一同主にある祈り手に感謝すると共に、天の父なる神様に一切の栄光を帰しました。



御祈りの答え：この献堂式が本部の建物の中で挙行できた事、全ての必要が不思議なように満たされた事、而も、もう一つの御祈りの答えを頂きました。それは献堂式にピアノが与えられたらと心中に願っていましたが、カンボジアでピアノを売っている所はありません。あったとしても手持ちの金額は全国から捧げられたコイン献金から支給される各宣教地への最大限の額で、それはキーボードが買えるだけでピアノなどは夢の夢でした。その夢が神様の摂理の裡に現実となるとは!! 而もVandy師が開拓中の教会に最近来会されるようになったクリスチャンで、最近、アメリカからの中古ピアノの輸入の仕事を開始された方が、教会の為に3,000ドルを2,000ドルにします、と提供されました。天のお父様はご自分の子供達の必要をタイムリーに満たして下さる事を現地の伝道者たちも見せられ、本部の建物、教会音楽教育の為にピアノをみて、神様を見る事を学んでほしいと式辞の一人として語らせて頂き、大きな励ましとこれからの教会建設の働きに一步前進、という時に、信仰の挑戦となりました。建物やピアノを見るのではなく、これらの所有者であり、供給者である神様を見るよう、御心を求めつつ、必要を主に訴え、祈る時、「ここまで主が私たちを助けて下さった。」とエベン・エゼルの神様は今日も昔も変わりなくインマヌエルの神様であって下さる事に膝を屈め、信仰の勝利を証しさせていただきます。Vandy師を始め、カンボジアの主にある兄弟方からの皆様方の尊い御祈りと御支援に心からの感謝の意を表しておられますことをお伝えしてご報告に代えさせていただきます。これからの救霊戦の為に御祈りを引き続き宜しくお願い申し上げます。

在主、蔦田緑乃

祈祷課題：続けられている建設が完成するまでの御守りと、内装の為に費用が満たされるよう。

自立教会の建設に邁進しておりますKCCの元にある伝道者に霊的一致が崩されないよう。

Vandy家のダビデ君の発達障害の治療が効果を齎し、生涯主の栄光が顕わされるよう。